

都市再生整備計画(第4回変更)

はやま ちく
麓山地区

ふくしま こおりやまし
福島県 郡山市

令和6年2月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

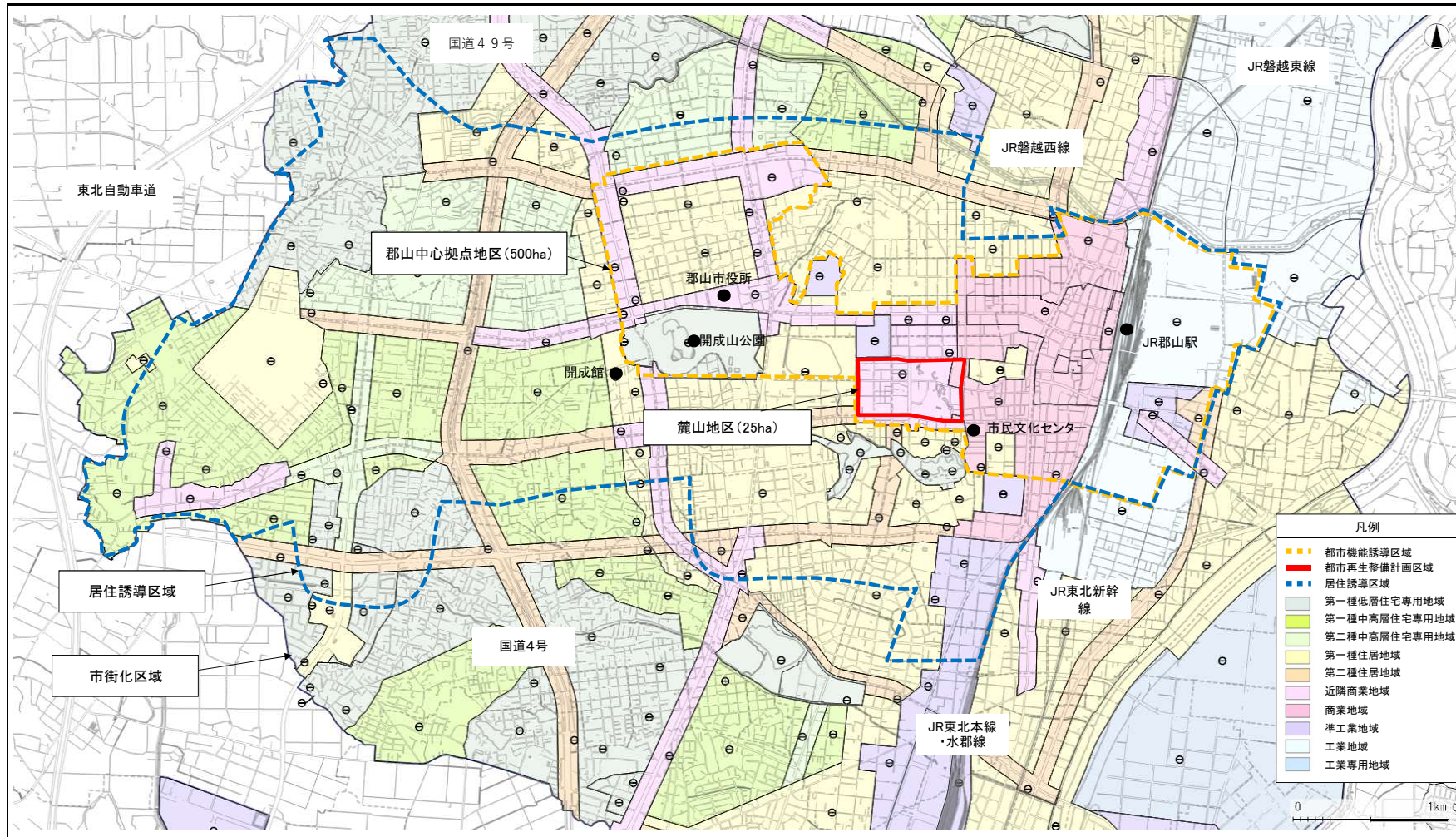
目標及び計画期間

都道府県名	福島県	市町村名	郡山市	地区名	麓山地区	面積	25 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度				

<p>目標</p> <p>大目標：日本遺産構成文化財をはじめとする歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進し、「郡山型コンパクト&ネットワーク都市構造」の形成を目指す</p> <p>目標1：誘導施設の整備により、都市機能の充実を図り、「歴史と緑の生活文化軸」の形成を推進する</p> <p>目標2：回遊性を高め、人々が集い交流し、賑わいあふれるまちあるき空間の形成を図る</p> <p>目標3：歴史・文化遺産を活かし、誇りと魅力あふれるまちづくりを推進し、シビックプライドの醸成を図る</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <p>本市は、福島県の中央に位置するとともに、東北新幹線や東北・磐越自動車道が縦横に交差する高速交通網の拠点となっており、首都圏と東北、さらには太平洋側と日本海側とを結ぶ広域的なネットワークの結節点となっている。利便性の高さから、産業、教育、医療、流通等の都市機能が集積する福島県の中心拠点となっており、人・モノ・情報が集まる「陸の港」として、福島県をリードする「経済県都」として成長を続けている。</p> <p>また、本市を中心として近隣16市町村とともに「こおりやま広域連携中核都市圏」を形成するとともに、SDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う「SDGs未来都市」として、少子高齢・人口減少社会にあっても地域を活性化し、経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるよう取り組みを進めている。</p> <p>本市の都市づくりにおいては、「郡山市都市計画マスタープラン2015」において、将来都市構造を「郡山型コンパクト&ネットワーク都市構造」とし、本市はもとよりこおりやま広域圏全体の発展を担う「広域交流中核拠点」や、その機能を補完する「交流推進拠点」、歴史的に形成されてきた地域の生活圏となる「地区拠点」、その他都市機能の核となる「産業拠点」等を定め、それらの拠点間が交通や情報通信等のネットワークで結ばれた利便性の高いコンパクトで周辺環境と調和した都市の形成を目指している。</p> <p>特に、歴史資源、都市機能の集積を活かし、さくら通り、麓山通りを中心に、開成山公園から郡山駅、阿武隈川に至る東西軸を、本市の成長を牽引する「歴史と緑の生活軸」として位置づけ、質の高い都市機能を誘導することとしている。</p> <p>さらに、「郡山市都市計画マスタープラン2015」で定めた将来都市構造の具体化に向けた取組を推進することを目的に策定した「立地適正化計画」においても、高次の都市機能が集積し広域交流や市民生活を支える郡山中心拠点地区を「都市機能誘導区域」として位置付けている。</p> <p>その中心となる麓山地区は、中央公民館、中央図書館、男女共同参画センターが所在し、市民文化センターが近接するなど、県内でも有数の文化施設が集積する地域となっている。また、麓山公園、公会堂など市の歩みを物語る歴史・文化遺産も点在している。</p> <p>こうしたことから、当該地区において、市内各所に分散している文化財関係施設を適切に集約化するとともに、本市の歴史・文化遺産の情報発信と次世代継承の拠点となる(仮称)郡山市歴史情報・公文書館を新たに整備し、地域の歴史・文化遺産をつなぐ回遊促進による交流と賑わい創出を推進することで、「歴史と緑の生活軸」、さらには将来都市構造「郡山型コンパクト&ネットワーク都市構造」の形成を目指す。</p> <p>なお、都市全体の再構築にあたっては、広域的なサービス施設をはじめとする各種都市機能が無秩序に薄く拡散していくと、自動車利用が加速され、高齢者等、自動車を利用しない方々の都市機能へのアクセシビリティの低下や生活サービスの提供効率の低下、都市の空洞化など重大な影響を及ぼすことが懸念されるため、都市機能の拡散を抑制することし、利便性の高いエリアなどへ機能集積を進めていくとともに、これまで整備してきた既存ストックを有効に活用していくことを基本とする。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>本市は、明治初期の「安積開拓・安積疏水開さく」事業をはずみとして、農業の発展のみならず、工業の近代化、さらには、新産業都市指定に伴う商業、工業の活性化など、産業のバランスが取れた商工業都市として発展してきた。</p> <p>麓山地区には、安積疏水の終着点の一つである「麓山の飛瀑」や、市制施行を記念して建設された公会堂など、市の発展の歩みを物語る歴史・文化遺産が所在している。また、中央公民館や中央図書館が立地し、市民文化センターが近接するなど、県内有数の文化クラスター(文化集積地)となっている。</p> <p>「安積開拓・安積疏水開さく」事業については、関連するストーリーが文化庁の日本遺産に認定されたことから、関係自治体やボランティア団体等を構成員とする日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会を組織し、歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進している。</p> <p>先人の開拓の歴史を基礎とした本市が躍動感をもって発展していくためには、都市と田園が共生し、多様な豊かさをもった暮らしができることが重要となり、郡山中心拠点地区の機能を強化するとともに、地区拠点とネットワーク化を図り、「郡山型コンパクト&ネットワーク都市構造」の形成を推進する必要がある。</p> <p>貴重な歴史・文化遺産が所在し、文化施設が集積する麓山地区は、「こおりやま広域連携中核都市圏」を牽引する上でも、また持続的な都市構造への再構築を推進する上でも重要な位置を占めている。</p>
<p>課題</p> <p>【郡山中心拠点地区の機能強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史資料館は築60年が経過し、老朽化が進み、安全性の確保が急務となっている。また、市が所蔵する歴史資料は市内各地に分散して保管しており、適正な保存と効果的な活用が十分に行われていない状況となっていることから、本市の歴史・文化遺産について情報発信するとともに、次世代へ継承するための拠点施設を整備する必要がある。 「こおりやま広域連携中核都市圏」全体の中心市としての役割が期待されており、本市はもとより圏域全体の活力を図るため、広域圏を支える賑わいある拠点及び中心市に相応しい都市機能の集約・充実を図り、多様な人々の交流と活発な都市活動の場を創出する必要がある。 <p>【回遊性を高める賑わいとまち歩き空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> まち歩き空間の拠点となる交通結節点の向上のため、周辺道路環境や立体駐車場を整備する必要がある。 日本遺産構成文化財をはじめとする、豊かな歴史・文化遺産を活かし、回遊性を高めるためのガイダンス施設機能、ゲートウェイとしての機能を整備する必要がある。 <p>【シビックプライドの醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿場町を記念して造られた麓山公園、市制施行を記念して建設された公会堂など、市の歩みを物語る歴史・文化遺産の更なる周知と活用を図る必要がある。 既存の歴史資料館等により、公会堂の景観が損なわれており、市民に親しまれ、訪れた人々を引きつける魅力ある都市的空間、シンボルの形成を図る必要がある。 <p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>【あすまこおりやま(郡山市まちづくり基本指針)】(2018～2025年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 分野別将来構想大綱2「交流・観光の未来」として、「人が交流し、明るい声が聞こえるまち」、「国内外に発信できる、自慢の地域資源があるまち」を明記 <p>【都市計画マスタープラン2015】(2015～2030年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市づくりの方針として、市街地を東西につなぎ、本市の魅力を発信する「歴史と緑の生活軸」の形成を掲げ、高次都市機能の集積・誘導、歩行者主体のまちづくりによる賑わい形成、交通結節機能の強化を明記 先導プロジェクトとして「歴史継承の拠点となる公文書資料館の設置検討」を明記 <p>【郡山市立地適正化計画】(2019～2030年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「歴史と緑の生活軸」を基本に、地域の一体性、回遊性等の観点から麓山地区を含む郡山駅・郡山市役所周辺を郡山中心拠点地区(都市機能誘導区域)として設定 立地を誘導するための施策として、「(仮称)郡山市歴史情報・公文書館の整備検討」を明記 公共交通に関する施策として、「駐車場や駐輪場など新たな交通結節点の整備検討」を明記

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【中心拠点誘導施設の整備により、都市機能の充実を図り、「歴史と緑の生活文化軸」の形成を推進する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化遺産を保全、整備活用し、情報発信するとともに、将来へ継承するための拠点施設「(仮称)郡山市歴史情報・公文書館」を整備し、「歴史と緑の生活文化軸」の形成を推進する。 ・施設整備にあたっては、公共施設総合管理計画に基づき、市内各所に分散している文化財関係施設を適切に集約化するとともに、新たな機能として公文書館機能を入れて多機能化し、総量及び更新費用の縮減を図る。 ・事業活動としては、ICTの利活用や、デジタルアーカイブの充実により、市全域の魅力を発信し、郡山中心拠点地区だけでなく、地区拠点とも相互交流を図り、回遊性の向上やネットワークの強化を推進する。 ・周辺文化施設との連携を推進し、文化クラスター(文化集積地)としての機能強化を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘導施設：(仮称)郡山市歴史情報・公文書館整備事業(博物館エリア) ・高次都市施設：(仮称)郡山市歴史情報・公文書館整備事業(交流エリア) ・道路：市道麓山一丁目虎丸町線整備事業 ・道路：市道麓山一丁目10号線道路整備事業 ・地域生活基盤施設：立体駐車場整備事業 ・地域生活基盤施設：遊歩道整備事業 ・地域生活基盤施設：案内板整備事業
<p>【回遊性を高め、人々が集い交流し、賑わいあふれるまちあるき空間の形成を図る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立体駐車場を整備し、交通結節点としての機能強化を図るとともに、まち歩きを促進する。 ・中央図書館と中央公民館を結ぶ遊歩道(人工地盤)を整備し、賑わいと交流の空間を創出する。 ・周辺市道については、拡幅や右折レーンの整備し、安全性を確保するとともに、宿場町昇格(1824年)を記念して造られた麓山公園、市制施行(1924年)を記念して建設された公会堂等と結び、回遊性を促進する歩道を整備する。 ・日本遺産構成文化財を巡るガイド機能の設け、安積疏水の終着点の一つである「麓山の飛瀑」を起点として、市全域の回遊性を向上させる。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘導施設：(仮称)郡山市歴史情報・公文書館整備事業(博物館エリア) ・高次都市施設：(仮称)郡山市歴史情報・公文書館整備事業(交流エリア) ・道路：市道麓山一丁目虎丸町線整備事業 ・道路：市道麓山一丁目10号線道路整備事業 ・地域生活基盤施設：立体駐車場整備事業 ・地域生活基盤施設：遊歩道整備事業 ・地域生活基盤施設：案内板整備事業
<p>【歴史・文化遺産を活かし、誇りと魅力あふれるまちづくりを推進し、シビックプライドの醸成を図る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市制施行100周年(2024年)を見据え、本市の歩みを象徴する歴史的建造物である公会堂の景観を阻害している歴史資料館を解体し、広場等を整備することで、魅力ある都市空間の形成を図るとともに、公会堂を本市のシンボル、「まちの顔」として活かし、シビックプライドの醸成を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘導施設：(仮称)郡山市歴史情報・公文書館整備事業(博物館エリア) ・高次都市施設：(仮称)郡山市歴史情報・公文書館整備事業(交流エリア) ・地域生活基盤施設：公会堂前広場整備事業
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あすまちこおりやま(郡山市まちづくり基本指針)」の策定にあたっては、従来からの市民参加手法であるパブリックコメント、市民意識調査、地区懇談会等に加えて、わかもの政策討論による次世代を担う若者からの意見に加え、新たな取り組みとして、より公平な市民参加を確保するため、無作為抽出した市民の皆様による「あすまち会議こおりやま」を開催し、幅広く市民の「想い」や「願い」を基本指針に反映。また、14の行政センター及び旧市内の全15地区で、地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」を開催し、地域の宝や未来に残したい地域の姿について検討。 ・(仮称)郡山市歴史情報・公文書館の整備については、2015年11月に「郡山市歴史資料保存整備検討委員会」からの施設整備提言を受けた。その具現化のため2016年度より「基本構想に係る有識者懇談会」を設置し、施設整備方針等について意見を伺いながら、2019年3月に基本構想を策定した。基本構想策定にあたっては、パブリックコメントを実施し、市民意見の反映に努めた。 ・2019年度には「あすまち会議こおりやま2019～秋～」として計三日間にわたりワークショップや、麓山地区のフィールドワークを開催し、施設整備のあり方について市民意見を伺った。また、施設整備について周知を図るため「こおりやま歴史・文化遺産フォーラム」を開催するとともに、パブリックコメントを実施して、2020年3月に基本計画を策定した。 <p>【日本遺産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年4月25日、猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー「未来を拓いた「一本の水路」-大久保利通「最期の夢」と開拓者の軌跡郡山・猪苗代-」が文化庁の日本遺産に認定。 ・関係自治体やボランティア団体等を構成員とする日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会を組織し、歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進。 <p>【こおりやま広域連携中枢都市圏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣15市町村とともに、住民が引き続きそれぞれの地域で暮らし続けられるように利便性を維持向上させ、将来にわたって豊かな地域として持続していくことを目指し、連携中枢都市圏の取組みを推進。 ・2019年3月19日、「『広め合う、高め合う、助け合う』こおりやま広域圏 ～ 持続可能な圏域の創生 ～」を将来像とし、圏域の基本目標や具体的取組等を定めた「こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン」を策定。 <p>【SDGs未来都市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年7月1日、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う都市として、県内で始めて「SDGs未来都市」に選出。 ・「SDGs未来都市」の中でも、特に先導的な取り組みであって、多様なステークホルダーとの連携を通じ、地域における自律的好循環が見込めるものとして、東北で初めて「自治体SDGsモデル事業」にも選出。 	

所在地 麓山地区(福島県郡山市)	面積	25 ha	区域	麓山一丁目、麓山二丁目の一部
----------------------------	----	-------	----	----------------



はやま こおりやま
麓山地区(福島県郡山市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標: 日本遺産構成文化財をはじめとする歴史・文化遺産を活かしたまちづくりを推進し、「郡山型コンパクト&ネットワーク都市構造」の形成を目指す	代表的な指標	歴史資料館の利用者数 (人/年)	4,997人 (H30年度)	→	50,000人 (R7年度)
	目標1: 誘導施設の整備により、都市機能の充実を図り、「歴史と緑の生活文化軸」の形成を推進する		中央図書館前歩行者通行量 (人/日)	417人 (R1年度)	→	500人 (R7年度)
	目標2: 回遊性を高め、人々が集い交流し、賑わいあふれるまちある空間の形成を図る		歴史・文化遺産の満足度 (点)	72.0点 (R1年度)	→	72.5点 (R7年度)
	目標3: 歴史・文化遺産を活かし、誇りと魅力あふれるまちづくりを推進し、シビックプライドの醸成を図る					

